

発表要旨

石坂 貴美

発表テーマ「国際開発におけるマイクロクレジットをめぐる事例の考察」

本発表では、国際開発におけるマイクロクレジット（以下 MC）を巡る議論を整理し、発表者がバングラデシュで調査をおこなった事例を提示し、その効果と限界、問題点を指摘する。融資を利用して生活を豊かにしたいと願う人びとのためにはどのような視点や対策が必要であるか、「人間の安全保障」の観点からより包括的な取り組みであるマイクロファイナンス（以下 MF）や現地の人びとの相互扶助が持つ可能性、社会的保護措置の必要性などについて述べる。

貧困層や低所得者を対象とした無担保小規模融資である MC は、現在世界で多くの人びとに利用され、貧困緩和、女性のエンパワーメントなどの効果が明らかにされる一方で、最貧困層へ効果や、貸し手の競争激化による多重債務問題などの限界や問題点も指摘されている。これに対して、MF とは、無担保小規模融資だけでなく貯蓄活動や保険、送金などの金融もふくめた金融活動を指す。しかし、先行文献における研究は、MF という表現を使いながらも、MC の実態やその効果についての研究が中心であることが多い。これに対して MC の限界や問題点を補完するセーフティネットの機能を有する保険の仕組みを備えた MF の可能性に注目する必要性について指摘する。

発表では、バングラデシュの脆弱な社会構造の中で、MC を利用した女性たちの活動事例を提示する。バングラデシュの青年・スポーツ省青年開発局では、さまざまな職業訓練を実施し、修了生に対して自営業促進のための小規模融資をおこなっている。発表者は、2001 年から約 2 年間青年海外協力隊員として青年開発局において染色の技術指導をおこない、その後、2007 年に 2 回にわたり、訓練修了後に自営業者となった女性たちを対象に各 2 週間フィールドワークをおこなった。女性たちは生産組合を立ち上げ活動するようになっている。そこでは、同局やその他の MC を利用して、事業を拡大し成功している者もいるが、逆に融資の返済のために土地や家を手放したうえ、周りからの信頼までも失った者もいる。MC は女性たちの生活を豊かにする可能性を広げる要素を有しているが、バングラデシュの社会には社会保障が整備されておらず、本人や家族の病気や失業などにより、融資返済ができなくなり逆に生活を窮地に追い込む可能性がある。このようなリスクは成功した女性たちも同じように抱えているといえる。このような状況に対して発表者は、女性たちの組合に対して、本人や家族の病気や怪我のリスクに備えた基金設立を提案した。

上記の事例の提示と分析により、彼女たちを取り巻くバングラデシュの社会の問題点を明らかにし、「人間の安全保障」の観点から、MC による人びとの機会の拡大や能力開発を行う際には、同時に経済状況や保健の状況などの社会の脆弱性を補うセーフティネットの仕組みを構築する必要性について述べる。

第二次世界大戦後、国際開発の中では近代化論に基づく経済開発が主流であった。しかし、貧しい人びと生活を豊かにするには至らず、1990 年代に人間開発が台頭した。人間開

発は人の自由や多様性を尊重し、その人にとって価値ある生き方のために選択肢を広げるためのアプローチである。その促進のために「人間の生にとってかけがいのない中枢部を守り、すべての人の自由と可能性を実現する」「人間の安全保障」が提唱された。そこでは、能力強化と同時に保護が必要であり、それらによって人びとは選択肢を拡大することができる。とされ、「地域社会に根ざした保険の仕組みを資金と組織の側面から支援すること」や「セーフティネットや社会的保護措置」などが人間の安全保障の問題を解決する方途としてあげられている。

MCを巡る議論の中では、社会のインフラや市場の脆弱性に対する問題の指摘はあるものの、貯蓄や保険などセーフティネットのしくみを構築することによって人びとを保護し、その問題解決に備えるMFの機能に注目するものは少ない。実際には、インドやバングラデシュのMF提供機関や民間会社が低所得者向けのマイクロ保険を実施しているが、MFについての報告や研究では、量的な調査としては、融資の件数や金額、返済率、借り手の収入の変化などが中心であり、質的調査であっても、小規模融資に関する事例がほとんどである。MCの仕組みを作り上げたモハメット・ユヌスは、人びとは機会さえ与えられれば、自己雇用創出する能力を持っていると述べているが、「人間の安全保障」の観点からすると、その能力開花のためには、融資だけでなく、人びとを保護する仕組みにも注目する必要があると言えよう。

今後の課題は、MFにおける保険の位置づけとその効果について研究することであり、事例として紹介した女性たちが、組合を通じて脆弱な生活保障に対して、自分たちの保護する仕組みをどのように構築していくか、引き続き調査が必要である。

参考文献

岡本眞理子 (2007) 「南アジアにおける Social Protection System の発展 インドとバングラデシュの事例より」日本福祉大学 COE プログラム Working Paper Series, WP-2007-02-J

岡本眞理子/栗野晴子/吉田秀美編 (FASID マイクロファイナンス研究会) (1999) 『マイクロファイナンス読本 途上国の貧困緩和と小規模金融』明石書店

鷹木恵子 (2007) 『マイクロクレジットの文化人類学 中東・北アフリカにおける金融民主化にむけて』世界思想社

人間の安全保障委員会 (2003) 『安全保障の今日的課題 人間の安全保障委員会報告書』朝日新聞社/Commission on Human Security (2003) *Human Security Now, Final Report of the Commission on Human Security*, New York,

松井 範惇 (2004) 「マイクロ・クレジットとバングラデシュの貧困削減」『東亞経済研究』63(1) 山口大学

Microcredit Summit Campaign 'State of the Campaign Report 2009